4 法面の植生管理におけるハーブ類の利用

ねらいと成果

畦畔・法面の草刈り等の管理作業は傾斜地での負担の大きい作業であり、省力・軽作業化と景観にあった植生管理技術の開発が求められている。そこで、料理や茶等として利用ができる多様な植物からなるハーブ類のなかから、法面の植生管理に適した草種の選定と利用技術について検討した。

その結果、生育が早く被度が高いタイム類やオレガノのほか、生育はやや遅いが常緑のクリーピングローズマリーが法面の植栽に適していた。これらのハーブで法面を覆うのには1年程度かかり、その間の法面の保護と除草管理を要するが、防草シートの併用により安定した植生管理が可能となった。

内　容

試験場内の圃場や法面における40種類余りのハーブの生育調査で、タイム類やミント類の生育が早く被度が高かった。ミント類は草丈が約1mと高く、タイム類が比較的草丈が低く法面の植栽に適していた。またオレガノも被度が高く、クリーピングローズマリーは生育がやや遅かったが、冬期も葉が緑色をよく保持した（表1）。

タイム類やオレガノは2～3年目以降夏期に部分的に枝枯れが発生したが、クリーピングローズマリーでは見られなかった。

現地法面では、フイリレモンタイムの生育が早かったが、全面被覆するのに1年程度を要したので法面の保護と除草管理の軽減のため、マルチング資材を併用することが望ましかった（表2）。

耐久性のある透水性の防草シートを併用することによりオレガノ、フイリレモンタイムとも生育が改善され、被度が高くなった。また、法面の造成後の経過年数により生育差がみられた（表3）。

普及上の注意事項

1．定植時期は冬期や夏期を避け、春や秋の降雨が期待できる時期に行う。
2．やや乾燥条件を好むので過湿地は避ける。
3．防草シートの植穴に発生する雑草は手取り除草する。
4．タイム類は過繁茂になると枝枯れが発生しやすいので、少肥での管理に努める。

岩井　豊通（中央農技・園芸部）

表1　圃場におけるハーブ類の2年目の生育

種類	常緑性	被度		草丈 cm		評価
	H12年3月2日	5月中旬	10月中旬	6月中旬	10月中旬	
オレガノ	半～落	5	5	45	(37)	○
ｸﾘｰﾋﾟﾝｸﾞﾀｲﾑ	常～半	5	5	10	14	○
ﾌｲﾘﾚﾓﾝﾀｲﾑ	常	5	5	22	31	○
ﾚﾓﾝﾀｲﾑ	常～半	4	5	10	16	(○)
ｸﾘｰﾋﾟﾝｸﾞﾛｰｽﾞﾏﾘｰ	常	4	5	27	44	(○)

表1の注）
常緑性：常－常緑、半－半常緑、落－落葉又は地上部枯
被度：5－80％以上、4－60％以上、3－40％以上、2－20％以上、1－19％以下
草丈：（）内は開花後刈り込んだもの
評価○：有望種、（）は次点

表2　現地法面におけるハーブ類の生育

種類	被度 ％			
	12年12月（草丈cm）	13年5月	7月	12月（草丈）
オレガノ	45（6）	55	65	80(16)
ｸﾘｰﾋﾟﾝｸﾞﾛｰｽﾞﾏﾘｰ	45(18)	65	75	85(18)
ﾌｲﾘﾚﾓﾝﾀｲﾑ	45(17)	70	95	90(23)

平成12年5月定植、1区40株（30cm×30cm、5条×8列）
ピートモスとまさ土の1:1混合土（ロング4-2-4-360を10g/L混合）を1株当たり250ml施用

表3　防草シートおよび法面の造成後経過年数がハーブ類の生育に与える影響

試験地	種類	被覆なし	防草ｼｰﾄ
小野市	オレガノ	15%(6)cm	20（9）
（造成3年目）	ﾌｲﾘﾚﾓﾝﾀｲﾑ	15(9)	40（11）
東条町	オレガノ	－	65（25）
（造成23年目）	ﾌｲﾘﾚﾓﾝﾀｲﾑ	－	75（28）

平成13年5月定植、12月調査
被度：％、草丈：cm
防草シート：ポリエチレン高密度織物シート